



ウェーブロックホールディングス株式会社

説明資料

2018年 3月

証券コード:7940 東証2部上場

なぜこの様な機会を頂いているのか

- 「樹脂の中間加工」：地味な業界
→興味を持ってもらいにくい
- 分かりにくい会社
 - ・ 会社の規模が小さい割に事業領域が広い
 - ・ 類似会社が見つけにくい
 - ・ ここ10年余での変化が大きい。しかも、その多くが約8年間の非上場の期間中
 - ・ 再上場（2017年4月10日）後、あまり時間が経っていない
→企業価値を評価しにくい

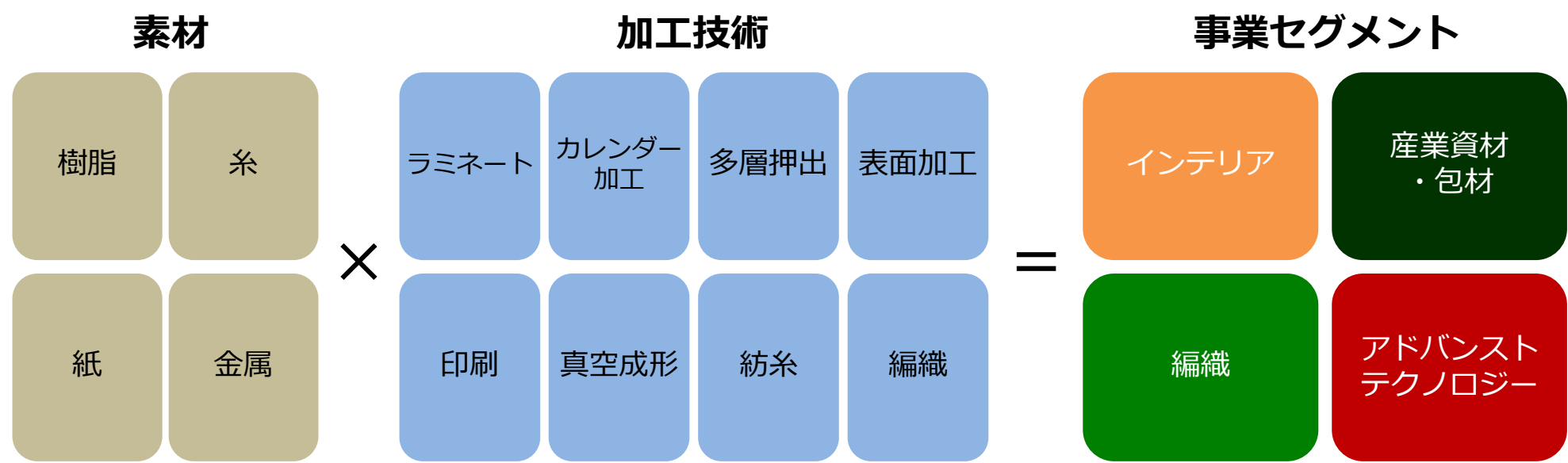
なぜこの様な機会を頂いているのか

- 会社の存在を知ってもらうこと
- 事業内容の理解を深めてもらうこと
- 当社のキーワードである「組み合わせ」と「仕組み」を理解してもらうこと
- 直近の業績を知ってもらうこと

商号	ウェーブロックホールディングス株式会社
本店所在地	東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー13F
設立	1964年6月
資本金	21.8億円
発行済株式総数	11,120,538株
上場証券取引所	東証2部（2017年4月10日上場）
代表者	代表取締役 兼 執行役員社長 木根渕純
従業員	(連結)744人 2017年3月末時点
決算期	3月末
主要経営指標	(2017年3月期 実績) 売上高 268億円 営業利益 13億円 親会社株主に帰属する当期純利益 11億円 (2018年3月期 予想) 売上高 281億円 営業利益 18億円 親会社株主に帰属する当期純利益 16億円

材料ユーザーとして長年蓄積したノウハウを活かした **「複数素材の加工メーカー」**

様々な素材と、各種加工技術を **「組み合わせる」** ことで付加価値を提供



成長のための基本方針

異なる特徴を持つモノを複数「組み合わせる」ことで新たな価値を創造



ビジネスモデルの再構築

創業以来のビジネスモデル

創業者の強烈なリーダーシップを
ベースとした事業展開

最小限の設備投資と独自の生産技術を
ベースとしたコスト競争力

アグレッシブな価格政策で
大口顧客を確保し、ボリュームを獲得

購買ボリュームをベースに、材料調達先を業界
2位以下のメーカー中心として安価で材料調達

創業者のリーダーシップの下、
生産技術とアグレッシブな価格政策を
ベースにしたビジネスモデル

非上場化時 (2009年7月)

- 材料メーカーの統廃合、
材料調達の価格交渉力の低下
- 原材料価格高騰、
売価へ十分に転嫁できず
- 海外製品との競争

未来に向けたビジネスモデル

創業以来培った「資産」をベースに

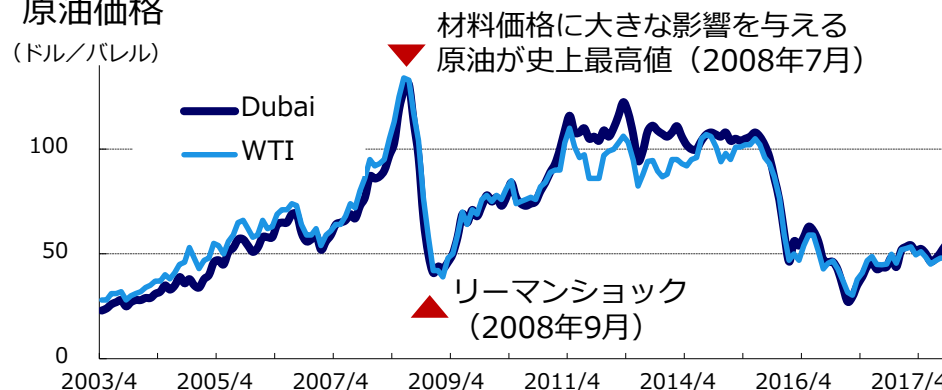
企業文化と企業体質を変革

1つの要因に過度に依存しない
事業ポートフォリオを構築

「仕組み」で差別化し収益を上げる

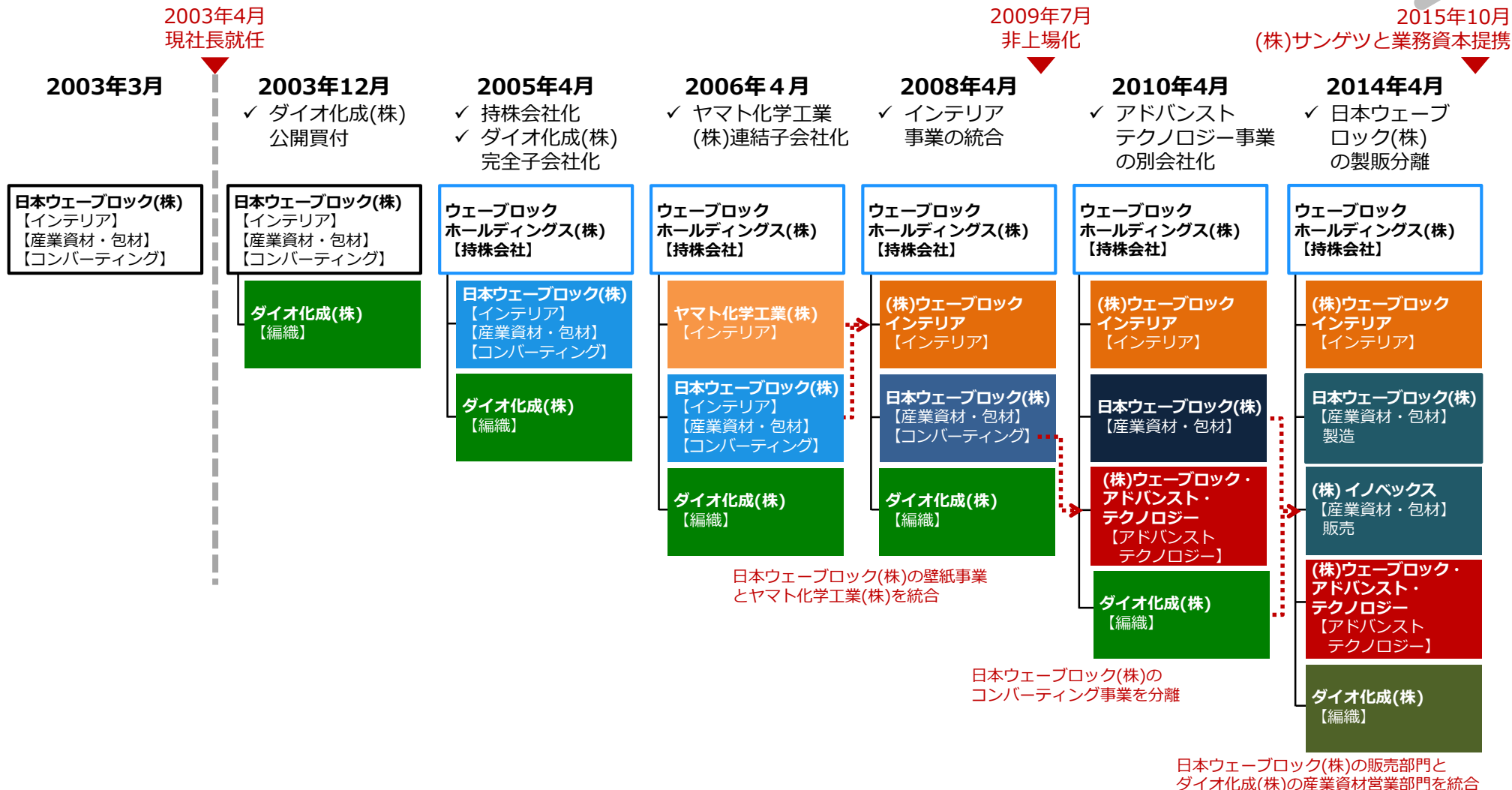
「仕組み」で差別化した
事業グループへ

原油価格
(ドル/バレル)



2003年以降の変遷

外部事業の取り込みと、事業の分離・統合による組み替えを通じて企業文化、企業体質を変革



事業概要

(売上高、営業利益は2018年3月期見込)

インテリア事業

住宅用壁紙製品等の製造・販売

売上高 90億円 営業利益 7.4億円



壁紙ベース



ロータリー
製品



グラビアエンボス
製品

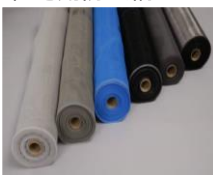
農業用ネット



遮光ネット



住宅用防虫網



売上高 83億円 営業利益 6.6億円

樹脂製網製品等の製造・販売

編織事業

産業資材・包材事業

樹脂製フィルム、シート等の製造・販売

売上高 96億円 営業利益 3.4億円



工事用
仮設シート



防煙垂れ壁



PSシート
食品包装用資材

【全体】

売上高 281億円
営業利益 18億円

ホイールキャップ



スーツケース



前面板・筐体



売上高 36億円 営業利益 3.8億円

金属調加飾シート、高機能多層シート等の製造・販売

アドバンステクノロジー事業



ブランドメーカーの見本帳への掲載点数を増点することが売上増加の鍵

ウェーブロックグループ、
大日本印刷、凸版印刷、
アキレス、オカモト等
(壁紙メーカー)

サンゲツ、リリカラ、ルノン等
(壁紙ブランドメーカー)

工務店、デベロッパー、
インテリアデザイナー、一般消費者等
(壁紙ユーザー)



インテリア

編織

産業資材・包材

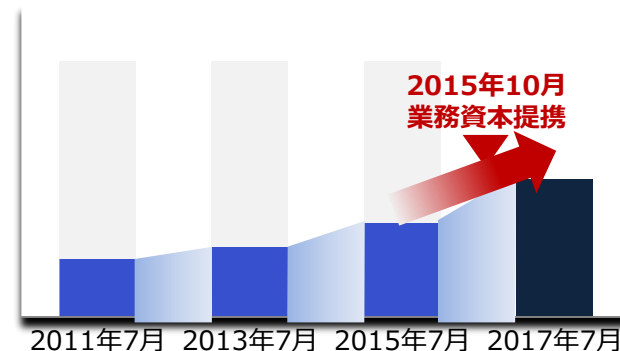
アドバンスト
テクノロジー



(株)サンゲツとの業務資本提携 「仕組み」により、中長期的取り組みが可能に

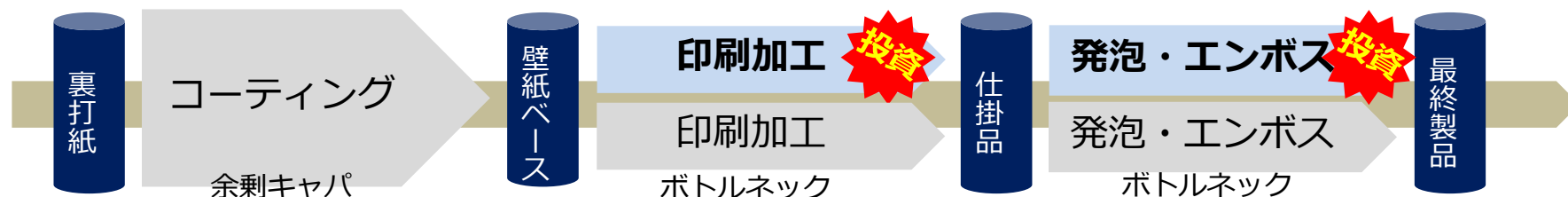
- 中長期的な視点を共有することで、設備投資などの中長期戦略の実行リスクを低減
- 事業バリューチェーン上の効率化から生まれる強いパートナーシップと相互依存
- 業界内で他社の追随を許さないコスト競争力を獲得

サンゲツの量産見本帳における当社壁紙シェア



製造工程のボトルネック部分の増強により、更なるコスト競争力アップ

- 2017年2月に設備投資、移設が完了
- 一関事業所のキャパシティを約50%増強



インテリア

編織

産業資材・包材

アドバンス
テクノロジー



高シェア製品を多数保有

分野	製品
生活資材	張替用防虫網、園芸用ネット
農業用資材	遮光網、防風網、防虫網
産業用資材	住宅用防虫網、建設用ネット

防虫ネット



遮光ネット

防風網

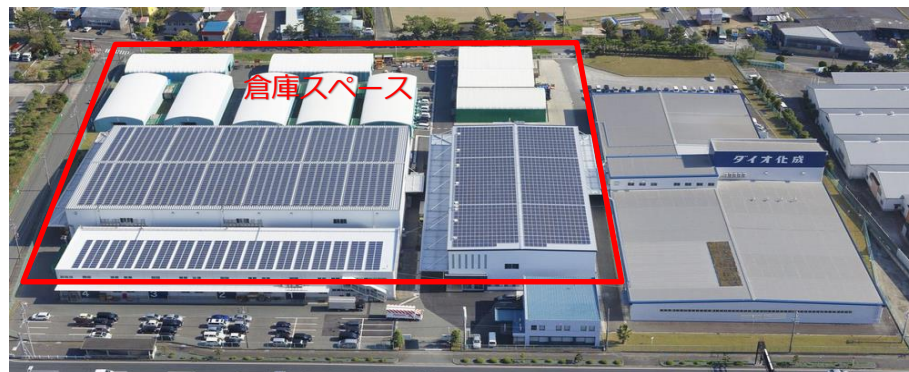


住宅用防虫網

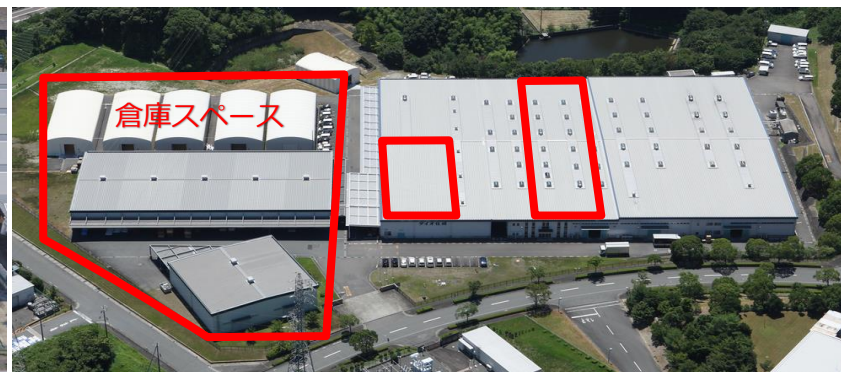


ユニークな供給体制 「仕組み」を武器として、ホームセンターとの取引を拡大

- 防虫網、園芸用ネット、遮光網等は、季節や天候によって需要が大きく変化
- 生活資材分野において3～8月が需要期であり、生産は通年で平準化



袋井工場（1964年設立 約35,868㎡）



掛川工場（1998年設立 約49,981㎡）



新しい付加価値製品の開発と、海外市場開拓

ネット・プラス1で新しい用途開発

- 自社で糸から生産することで、製品への機能付加がやりやすい

用途例：「虫のイヤがる網」



蚊が媒介する感染症の脅威が世界中で拡大
日本でもデング熱が発生、マラリアや
チクングニア熱等も流行範囲が拡大



薬剤を網に練り込み、高い忌避効果のある
網戸を開発。日本国内および台湾で売上増



水平展開として、虫が嫌がる薬剤
を練り込んだ「虫イヤテープ」を
上市。



日本での実績を生かした 海外市場での取り組み

- 日本では成熟した製品が、海外では
大きな成長余地のある製品に
- 中国内に生産拠点、物流拠点を設立
- 韓国、台湾、タイ、ベトナム等で
販路拡大中



中国における農業試験

インテリア

繊維

産業資材・包材

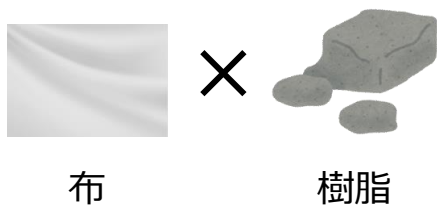
アドバンス
テクノロジー



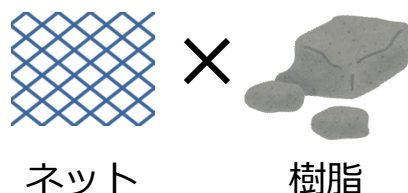
樹脂の配合技術と加工技術を生かし、機能性を高めた複合素材加工製品を開発

産業資材分野

- 材料の組み合わせ



ターポリンシート



メッシュシート

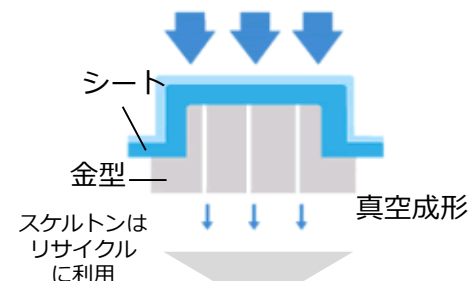


包材分野

- バージン材料とリサイクル材料の組み合わせ



ヨーグルト容器等



食品トレー等





市場ニーズが高く、付加価値の高い新製品開発の取り組み

防煙垂れ壁用「高透明不燃シート」

- 材料の組み合わせ



グラスファイバー布

×



特殊樹脂

=



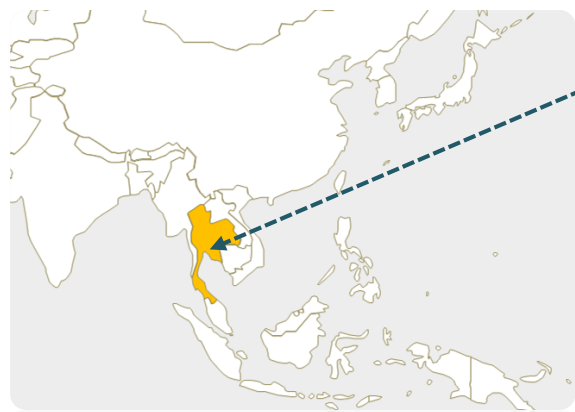
国土交通大臣の
不燃材料認定を取得

美観を保ちつつ震災時の安全性を向上

- ✓ ガラスの約10分の1の軽さで、かつ、割れない
- ✓ 他社品より高い全光線透過率と透明性



海外市場開拓に向けて、編織事業と連携し海外子会社を設立



商号：Wavelock International (Thailand) Co., Ltd.

所在地：タイ王国バンコク

- ✓ 建設・農業・自動車業界等での拡大が見込まれるアセアン諸国での活動強化を目的に2018年2月7日に設立



インテリア

繊維

産業資材・包材

アドバンス
テクノロジー

独自性の高い技術の追求により次世代の付加価値製品を開発

- 特殊金属を蒸着したシートを自動車・家電等の加飾パーツ向けに製造・販売
- 高機能多層シートを、スマートフォンやナビゲーションシステム等のディスプレイ向けに製造・販売

金属調加飾フィルムの特長

- 金属と比較して軽量
- 優れた成形性
- メッキに比べ製造工程での環境負荷が小さい
- メッキや金属では難しい特殊な意匠が表現可能
- 電波透過性能、光透過性能に優れる

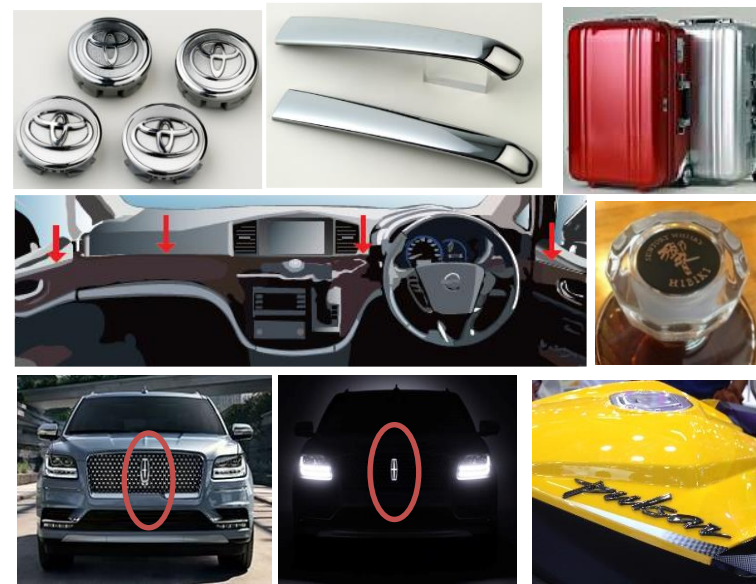
アクリル層

接着層

金属蒸着層

熱可塑性樹脂

- 接着層に着色する独自の技術(特許保有)により、小ロット対応可能なカラーバリエーションによる差別化(大手カーメーカー、大手自動車メーカーでの採用)
- 表面アクリル層の採用で深みのある意匠性を実現



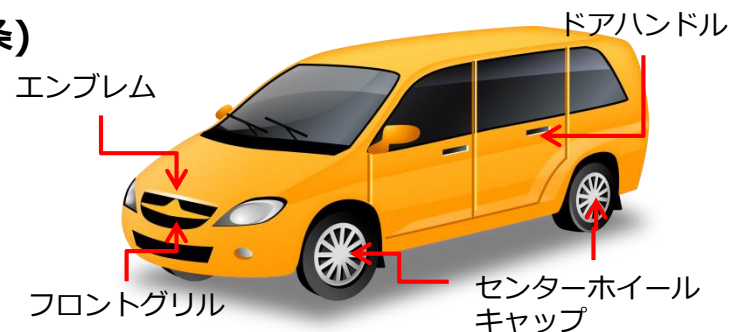


環境規制による市場拡大：環境規制と防錆性能

2000年10月制定 ELV[End-of Life Vehicles]に関するEU指令(第4条)
～新型車の環境負荷物質に関する規制

六価クロムメッキの代替として三価クロムメッキへのシフトが
図られるが、耐腐食性能不足や高コストのために浸透せず

金属調加飾フィルムは環境負荷の低減と、防錆を両立



乗用車に利用される主なメッキ製品



自動走行運転技術の進展：電波透過性能

衝突被害軽減ブレーキ義務化の流れ

衝突被害軽減システム用センサー部分に、メッキや金属に替わる
電波透過性に優れた代替素材として、
金属蒸着を利用した金属調パーツの需要増大

**金属調加飾フィルムは、樹脂パーツへの直接蒸着と比較して、
歩留まり、ひいてはコスト面で有利**

レーダー波を阻害しないセンターエンブレム



- 2017年3月期は、売上高が過去最高(前年比7.3%増)
- 2018年3月期は、**売上高、営業利益ともに過去最高**を見込む
- 第3四半期累計はインテリア事業が売上増を牽引。営業利益は、操業度や生産効率向上効果により進捗率82.9%

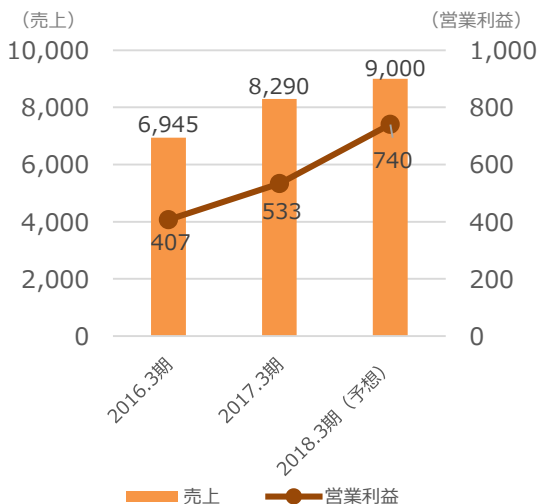
(単位：百万円)

	2016年 3月期 (実績)	前年比	2017年 3月期 (実績)	前年比	2018年 3月期 (予想)	前年比	2018年 3月期第3 四半期累計 (実績)	進捗率
売上高	25,055	+1.6%	26,886	+7.3%	28,100	+4.5%	20,934	74.5%
営業利益	740	△18.9%	1,359	+83.6%	1,800	+32.4%	1,492	82.9%
経常利益	904	△32.5%	1,696	+87.5%	2,170	+27.9%	1,765	81.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	365	△64.6%	1,107	+202.9 %	1,600	+44.4%	1,314	82.1%

損益推移 (セグメント別)

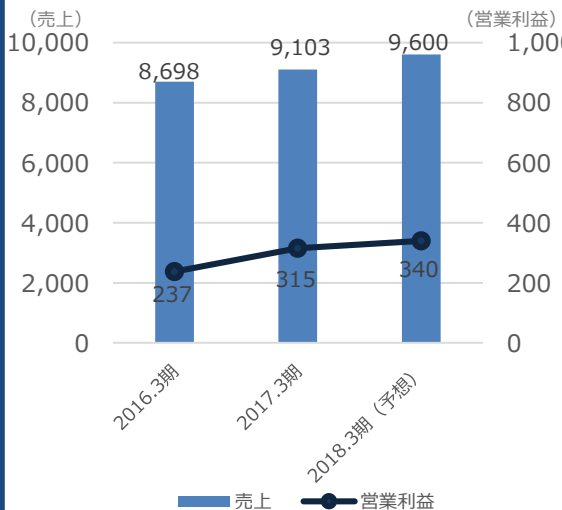
(単位：百万円)

インテリア事業



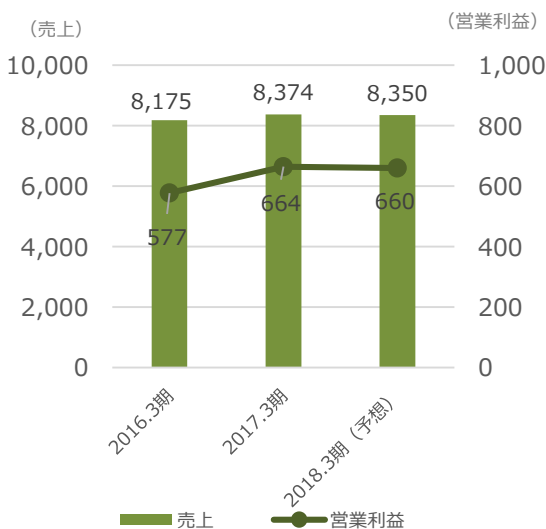
- 新設住宅着工戸数が前年比伸び悩む中、2015年10月に資本提携した(株)サンゲツの壁紙見本帳への当社グループ製品の掲載点数の増加等が、販売増に寄与
- 2017年7月に発行された(株)サンゲツ量産品見本帳への増点は、2018年1月より本格寄与の見込み
- 生産能力の増強による増産体制の構築、生産効率の向上による原価低減や継続的なコスト削減が利益を押し上げ

産業資材・包材事業



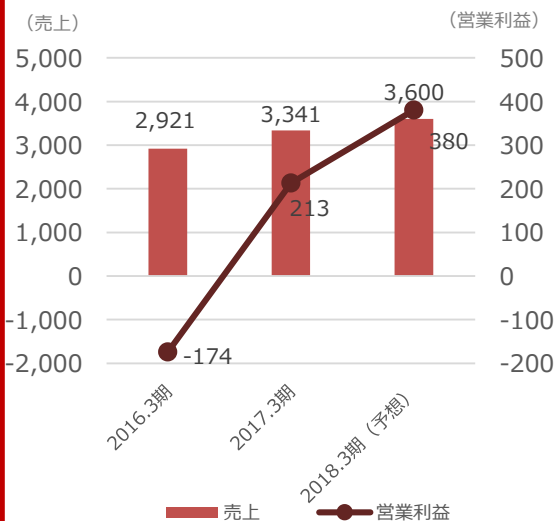
- 産業資材分野において、建設および住宅関連業界は底堅い需要
- 防煙垂壁用途の高透明不燃シート、間仕切りシート等が好調に推移
- 包材分野において、コンビニエンス向けの食品容器が底堅く推移
- 編織事業とともに、タイに子会社を設立し海外展開に着手

編織事業



- 国内での安定的なシェアを維持
- 住宅資材分野において、園芸向け防草シートの販売等が奏功し、堅調に推移
- 国内・海外工場における生産効率の向上や原価低減、継続的なコスト削減が利益に寄与
- 中国・東南アジアにおいて防虫資材や遮光資材による農業試験を展開。農作物育成のパフォーマンス向上や減農薬を検証

アドバンステクノロジー事業



- 金属調加飾フィルム分野において、2016年度3月期に売上増に寄与した国内自動車案件は順次モデルエンドを迎えるも、インド・東南アジアにおける新規採用や、中国での自動車内装案件等が好調に推移。加えて北米向けや国内家電向け新規販売が売上をカバー
- PMMA/PC2層シート分野は、中国での販売不振や設備トラブル等を主因として売上減。営業損失を計上
- 医療用湿布基材の受注が復調

通期見込（セグメント別）

第4四半期は、現在の状況が継続すると想定するも、原材料価格が上昇傾向なこと、及び、例年、第4四半期における利益貢献が大きい編織事業のホームセンター向け需要期初回導入のボリュームが、決算期末直前まで確定出来ないことなどから、現在の通期業績予想を据え置く

(単位：百万円)

	2018年3月期										
	Q1 (実績)	前年比※	通期 進捗率	Q2 累計 (実績)	前年比※	通期 進捗率	Q3 累計 (実績)	前年比	通期 進捗率	通期 (業績見込)	前年比
売上高	7,649	+2.6%	27.2%	14,381	+2.7%	51.2%	20,934	+4.7%	74.5%	28,100	+4.5%
インテリア	2,173	+8.8%	24.1%	4,341	+7.8%	48.2%	6,742	+11.6%	74.9%	9,000	+8.6%
編織	2,836	△2.2%	34.0%	4,822	△1.0%	57.8%	6,265	△0.2%	75.0%	8,350	△0.3%
産業資材・包材	2,346	+7.6%	24.4%	4,630	+3.4%	48.2%	6,818	+1.0%	71.0%	9,600	+5.5%
アドバンステクノロジー	842	△9.2%	23.4%	1,643	△9.5%	45.6%	2,619	+1.3%	72.8%	3,600	+7.7%
その他・消去	△ 549			△ 1,055			△ 1,511			△ 2,450	
営業利益	744	+24.4%	41.4%	1,118	+23.8%	62.1%	1,492	+47.3%	82.9%	1,800	+32.4%
インテリア	215	+42.8%	29.1%	408	+77.2%	55.2%	613	+89.3%	83.0%	740	+38.6%
編織	428	+27.2%	64.9%	553	+17.8%	83.9%	593	+21.6%	89.9%	660	△0.7%
産業資材・包材	128	+85.6%	37.8%	196	+16.2%	57.7%	255	+4.8%	75.3%	340	+7.6%
アドバンステクノロジー	60	△47.4%	15.9%	130	△28.7%	34.4%	293	+53.9%	77.2%	380	+78.4%
その他	△ 88			△ 170			△ 263			△ 320	
経常利益	824	+32.9%	38.0%	1,297	+31.2%	59.8%	1,765	+36.9%	81.3%	2,170	+27.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	598	+33.2%	37.4%	954	+33.2%	59.7%	1,314	+40.7%	82.1%	1,600	+44.4%

基本方針

- 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向^{※1} が20%から30%となることを目安に
しつつ、安定的な配当を実行・維持すること

$$\begin{aligned} & \text{※1 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向} \\ & = \text{配当総額} \div (\text{親会社株主に帰属する当期純利益} - \text{負ののれん償却額}) \end{aligned}$$

2018年3月期 配当の修正

- 第2四半期累計期間における中間配当金を、12円に決定
- 期末配当については通期業績予想の修正を受けて、12円から13円に修正。結果、年間の配当金は25円となる見込み
- 年間業績見通しをベースに負ののれん償却額の影響を考慮すると配当性向は20.5%^{※2}となる

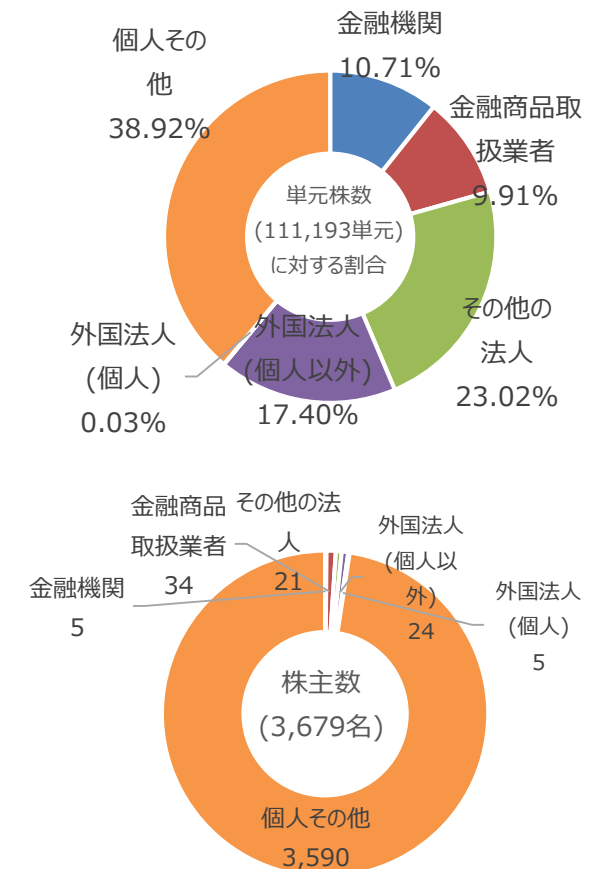
基準日	1株あたり配当金（円）		
	第2四半期末	期 末	合 計
前回予想 (5月10日公表)	12円	12円	24円
修正予想 (10月31日公表)		13円	25円
当期実績	12円		

※2 発行済株式総数から自己株式数を控除して計算

株主構成 (2017年9月末時点)

- 2017年3月末に筆頭株主であったエムシーピースリー投資事業有限責任組合は、2017年4月10日の上場時の売出を通じて、その持分の大部分を売却。その後、全ての株式を売却
- 2017年9月末における筆頭株主は、発行済株式総数の22.21%を保有する、業務資本提携先の(株)サンゲツ
- 株主総数は3,679名

順位	株主名	持株数(株)	持株比率(%)
1	(株)サンゲツ	2,470,000	22.21
2	自己株式	1,202,973	10.82
3	Entire Holding Group Ltd.	876,027	7.88
4	日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	604,300	5.43
5	BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	474,837	4.27
6	資産管理サービス信託銀行 (証券投資信託口)	269,400	2.42
7	SBI証券	229,000	2.06
8	木根 純	213,307	1.92
9	日本マスタートラスト信託銀行 (信託口)	192,000	1.73
10	田村 健	170,000	1.53
	その他	4,418,694	39.73
Total		11,120,538	100.00



POINT1

成熟市場において特徴ある経営

POINT2

スモールマーケットでのNo.1事業の集合体

POINT3

「組み合わせ」と「仕組み」で安定的、継続的成長

POINT4

知られていないこと、十分に理解されていないこと

Appendix

株価推移

- 2017年4月10日、東証第2部に再上場
- 初値721円(2017/4/10) 上場来安値619円(2017/4/14) 上場来高値1,654円(2018/1/26)
- 2/27終値(1,522円)で計算すると、
PER(予)：9.4倍 負ののれん影響額控除後PER(予)：12.4倍



連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期 第3四半期	負債・ 純資産	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期 第3四半期
流動資産	15,111	15,240	16,075	負債	20,313	19,583	18,921
現預金	1,773	2,062	2,667	営業負債	3,350	3,808	4,467
営業債権	6,619	7,292	7,314	有利子負債 ・社債	11,004	10,816	10,153
棚卸資産	6,187	5,350	5,695	負ののれん	1,184	795	504
その他	530	535	397	退職給付引当 金	2,062	2,070	2,108
固定資産	13,626	13,301	13,161	その他	2,711	2,092	1,689
固定資産	12,146	12,115	11,916	純資産	8,424	8,957	10,315
その他	1,480	1,186	1,245	株主資本	8,341	8,729	10,088
資産合計	28,737	28,541	29,236	その他	83	228	227

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期 第3四半期累計
売上高	25,055	26,886	20,934
インテリア	6,945	8,290	6,742
編織	8,175	8,374	6,265
産業資材・包材	8,698	9,103	6,818
アドバンステクノロジー	2,921	3,341	2,619
その他・消去	△ 1,684	△ 2,224	△ 1,511
営業利益	740	1,359	1,492
インテリア	407	533	613
編織	577	664	593
産業資材・包材	237	315	255
アドバンステクノロジー	△ 174	213	293
その他・消去	△ 307	△ 367	△ 264
経常利益	904	1,696	1,765
親会社株主に帰属する 当期純利益	365	1,107	1,314

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期 第2四半期
税金等調整前当期純利益	595	1,566	1,298
減価償却費	760	950	483
負ののれん償却額	△ 388	△ 388	△ 194
投資有価証券売却損益	253	△ 16	—
減損損失	40	111	—
退職給付引当金	△ 48	202	12
運転資本増減	△ 185	583	△ 114
法人税等支払額	△ 277	△ 258	△ 238
その他	28	444	29
営業キャッシュ・フロー	779	3,195	1,275
固定資産の収支	△ 1,033	△ 2,208	△ 347
投資有価証券の収支	2,020	57	△ 1
その他	△ 42	△ 10	+0
投資キャッシュ・フロー	945	△ 2,161	△ 348
フリーキャッシュ・フロー	1,724	1,034	926
借入金・社債の収支	△ 1,873	△ 67	△ 781
自己株式の収支	—	△ 719	—
ストックオプションの行使による収入	—	—	121
その他	△ 27	△ 34	△ 28
財務キャッシュ・フロー	△ 1,900	△ 822	△ 688

会社沿革

1964年6月 特許“ウェーブロック”技術の導入を前提に日本ウェーブロック(株)を設立

1965年2月 ウェーブロック製品の生産、販売を開始

1979年11月 塩化ビニル壁紙ベースの生産、販売を開始

1983年8月 ポリプロピレン（PP）シート業界に参入

1990年10月 店頭登録、当社株式を公開

1996年12月 東京証券取引所市場第二部に上場

2003年12月 公開買付によりダイオ化成(株)[当時東証2部上場]を連結子会社化

2005年4月 「ウェーブロックホールディングス(株)」に商号変更し、持株会社化

2006年4月 ヤマト化学工業(株)[当時三井物産100%子会社]を連結子会社化

2009年3月 ウェーブロックインベストメント(株)による公開買付

2009年7月 東京証券取引所上場廃止

2010年4月 (株)ウェーブロック・アドバンスト・テクノロジー設立

2012年3月 韓国にWavelock Korea Co., Ltd.を設立

2012年4月 台湾のEntire Technology Co., Ltd.と業務資本提携

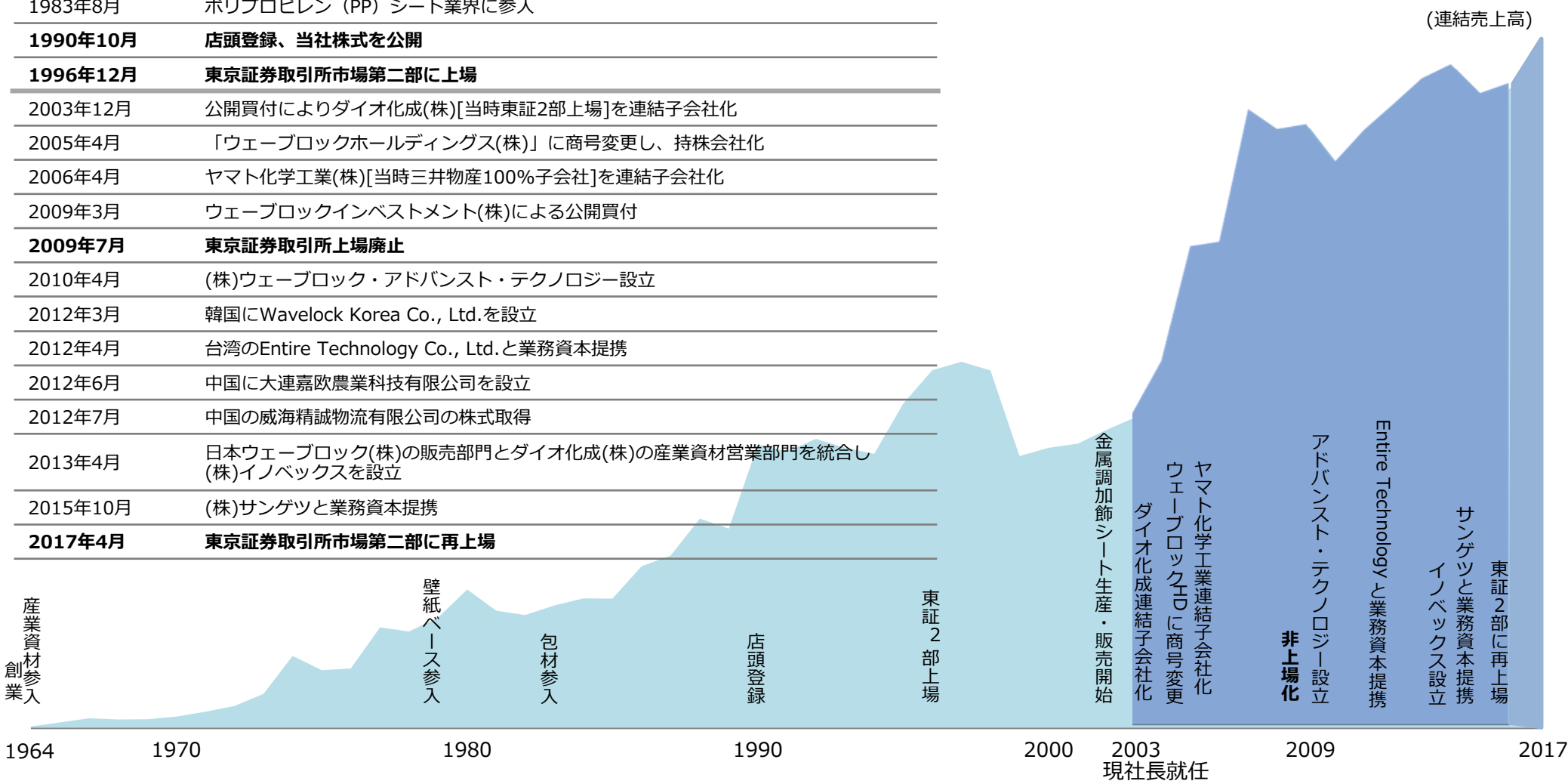
2012年6月 中国に大連嘉欧農業科技有限公司を設立

2012年7月 中国の威海精誠物流有限公司の株式取得

2013年4月 日本ウェーブロック(株)の販売部門とダイオ化成(株)の産業資材営業部門を統合し(株)イノボックスを設立

2015年10月 (株)サンゲツと業務資本提携

2017年4月 東京証券取引所市場第二部に再上場



本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。